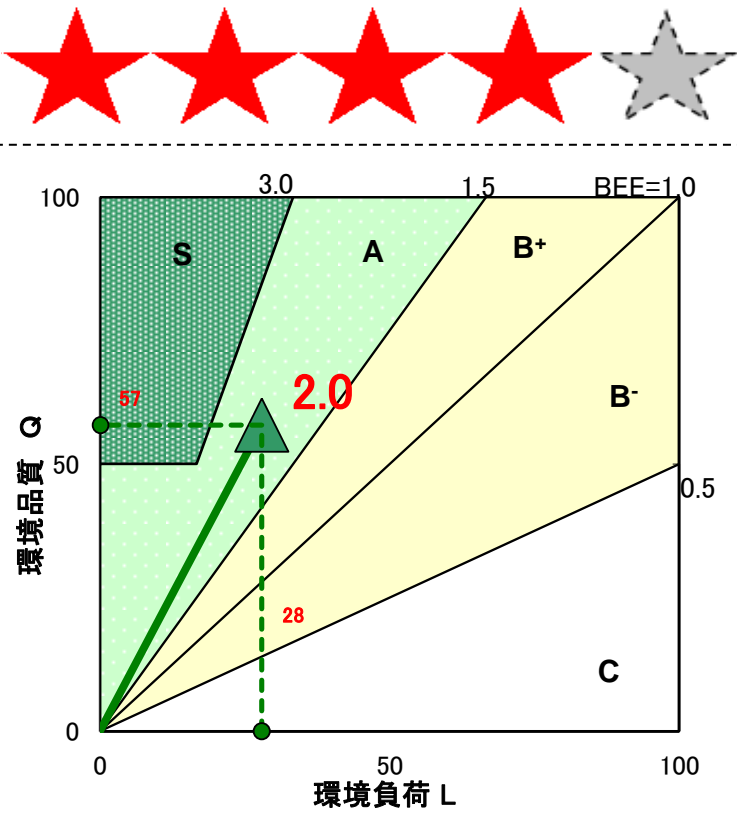


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	玉名市新庁舎	階数	地上4F		
建設地	熊本県玉名市岩崎	構造	SRC造		
用途地域	都市計画区域内 地域地区非指定	平均居住人員	XX 人		
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2012年7月25日		
敷地面積	20,738 m ²	作成者			
建築面積	4,529 m ²	確認日	2010年7月10日		
延床面積	10,180 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 2.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

77%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

94

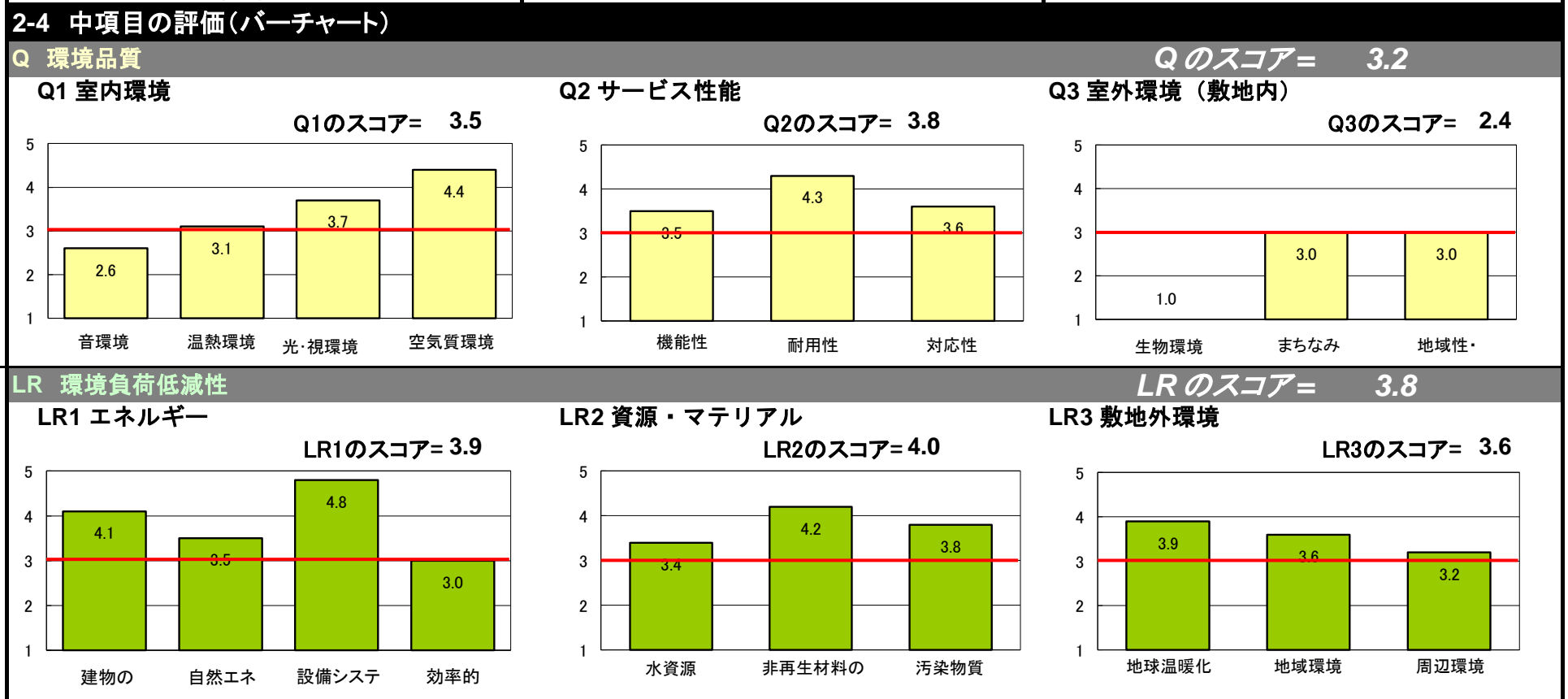
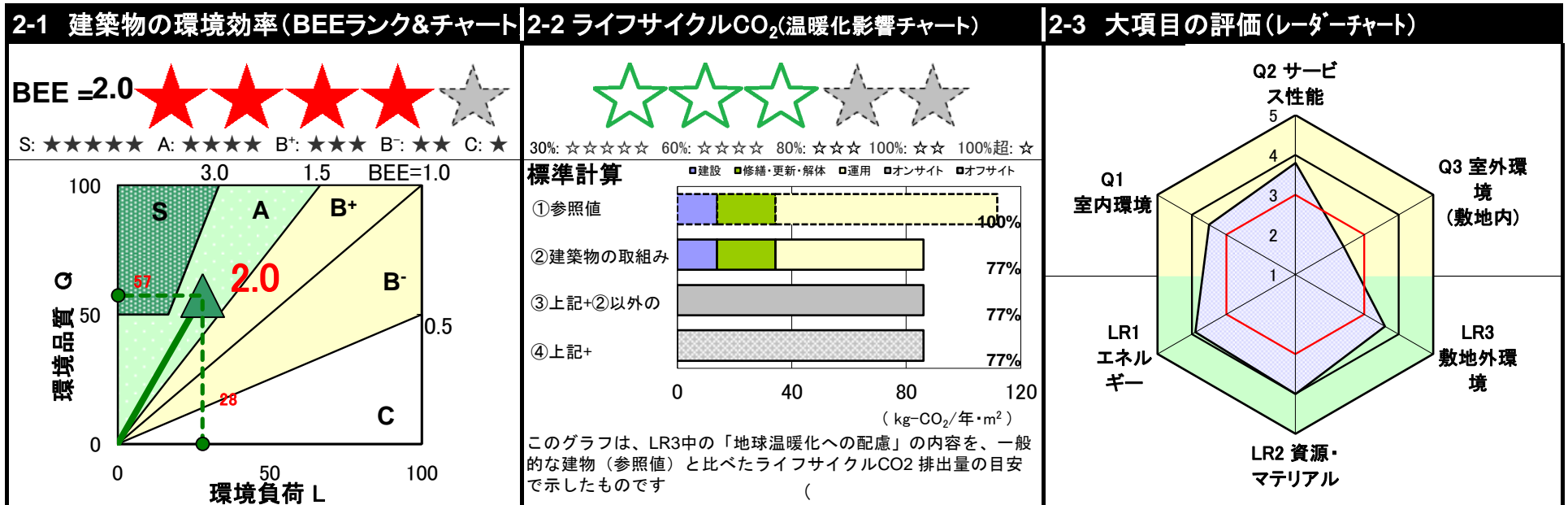
重点事項	評価点	熊本県重点評価基準
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	102.6	判定値 (評価点) ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	86.2	100点以上 
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	80点以上100点未満 
【重点事項4】 循環型社会の実現	102.0	60点以上80点未満 
		40点以上60点未満 
		40点未満 

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	玉名市新庁舎	階数	地上4F
建設地	熊本県玉名市岩崎	構造	SRC造
用途地域	都市計画区域内 地域地区非指定	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2012年7月25日
敷地面積	20,738 m ²	作成者	
建築面積	4,529 m ²	確認日	2010年7月10日
延床面積	10,180 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
玉名市新庁舎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		2.6	0.15	-	-			2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		2.2	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能	Dr-41~55	4.0	0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性	空調ゾーニングされており、ゾーン別に冷暖房の選択が可能なし	4.0	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.7	0.25	-	-			3.7
3.1 昼光利用		2.8	0.30	-	-			
1 昼光率		2.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備	トップライトの設置	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	ブラインドの設置	4.0	1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	1作業単位での点灯、消灯可	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		4.4	0.25	-	-			4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	内装仕上材はすべてF☆☆☆☆を使用	5.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
1 換気量	中央管理方式の空調設備なし建築基準法における換気量の1.7	5.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙、喫煙室なし	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.8
1 機能性		3.5	0.40	-	-			3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の円滑化誘導基準を満足	4.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井高:2.8m	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画	コンセプトの設定、照明計画と内装計画の一体化	5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ(内壁、床面、外壁)	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.3	0.31	-	-			4.3
2.1 耐震・免震		4.6	0.48	-	-			
1 耐震性	基準法に定められた50%増の耐震性を有する	5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律で等級3相当	5.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	屋上:アスファルト防水、外壁:タイル・コンクリート打放+耐候塗料	4.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:石張り、TC、壁:ボード類、天井:ボード類	5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用	4.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			4.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備	地震時の部分的被害が全体の機能停止を起こさない対策等	4.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用等	5.0	0.20	-	-
3	電気設備	非常用発電設備・電気設備等のは地上階に設置等	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスS	5.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高:4.15~4.25m	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.17	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造材だけではなく、仕上材を痛めることなく更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、通信配線の更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供(ピロティ)・施設提供(市民ホール)・中庭・バルコニー等	4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.9
1 建物の熱負荷抑制		PAL値:-17%	4.1	0.30	-	4.1
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	トップライト・クールトレンチ等	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明の採用等	4.8	0.30	-	4.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=32.3%	4.8		-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.15	-	3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.63	-	4.2
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材を2種類使用	5.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材を6種類使用	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	再利用できるユニット部材を使用	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	含有しない建材を4種類以上使用	5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		高炉セメントの利用、省エネ設備の導入	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	3.6
2.1	大気汚染防止	燃焼機器使用なし	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、駐車スペース・駐車施設の確保	5.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収のための整備、設備の設置	4.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン、広告物照明の取扱いの一部を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

「開かれた庁舎」づくり、「質実な庁舎」づくり、「安全・安心な庁舎」づくり、「緑のインフラ」づくり、「先進的なエコ庁舎」づくりの5つのコンセプトを元にした施設づくり。

Q1 室内環境

建物南面には出幅3.2mのバルコニーを設け、執務空間へ夏場の直射日光が入らない計画とすることで外壁面への熱負荷を抑制し、かつ、ブラインドを使わない開放的な執務空間を実現している。

Q2 サービス性能

執務空間はエントランスホールから繋がる吹抜けを囲うように配置することで、来庁者はどこに行けば良いのか一目で理解できる分かりやすい空間構成としている。エントランスホール脇には総合案内カウンターを設け、ソフト的な対応も可能な計画としている。

Q3 室外環境（敷地内）

施設の壁面線は前面道路を挟んで対峙する玉名合同庁舎の壁面線に合わせることで、市中心街からのアプローチに対して迎え入れる形の施設配置とし、前面には開放的な駐車場スペースを確保することで地域が持つ開放的で緑豊かな景観を継承した施設計画としている。

LR1 エネルギー

施設中心部に吹抜け、中庭空間を計画することで自然光や自然通風を積極的に取り入れた施設計画としている。また、クールチューブによる空調負荷の軽減や出幅の深いバルコニーや西外壁面に設けられたルーバーによる熱負荷の軽減を図るなど省エネルギー、自然エネルギーの有効活用等の積極的な対応を行っている。

LR2 資源・マテリアル

リサイクル材の積極的な採用や、スケルトン・インフィルの考え方を採用した建築計画により、施設建設から更新・廃棄までを考えた省資源・環境負荷の軽減に努めている。

LR3 敷地外環境

燃焼機器を使用しない、夏期の卓越風に配慮した施設配置にするなど地域環境の悪化を招かない計画としている。

その他

周囲に広がる田園風景や九州新幹線からの眺望などに配慮し、地域と調和した施設デザイン（配置計画、施設計画、ボリューム感、素材感等）としている。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 玉名市新庁舎

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	93.7	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				102.6	0.40	41.04
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	4.1	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				86.2	0.20	17.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				102	0.20	20.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	4.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数